

平成23年度 高島健康福祉事務所(高島保健所) 組織目標

組織の使命

子ども、高齢者、障がいのある人を始めとして、誰もがいきいきと健康で安心して暮らすことができる地域の実現を目指します。

組織の経営資源

人員18名(医師、獣医師、薬剤師、保健師、管理栄養士、事務職員など)

県民へのメッセージ

事業の実施を通じて地域住民の健康と福祉を支えると共に、関係機関や関係団体などと連携し地域課題の改善に取り組みます。

	課題 (何を)	具体施策 (どのように)	目標値 (どれくらい)	目標 (どんな状態にする)
目標1	住民の健康を守るため災害や健康危機に対して関係機関団体と連携し対策を講じます	健康危機管理調整会議を定期・随時に開催し、新型インフルエンザなどの感染症その他原因不明の健康被害などの発生予防、早期対応、拡大防止を図ります。	定例開催年1回、必要に応じて随時開催します。	関係機関団体が情報共有しながら総合的な対応を図ることができ、住民の健康被害の発生防止・早期対応等が図られています。
		災害時医療救護対策を推進します。	関係機関・団体との定期的な議(湖西地域災害医療体制検討委員会)を開催し平時および緊急時の体制整備を図ります。(年1回)	災害発生時に迅速な対応を図ることにより、負傷者等の救助(治療)が円滑に遂行できるようになっています。
目標2	健康福祉にかかる多様な住民ニーズに迅速な対応を図ります 【住民が健康でいきいきと暮らすための健康福祉情報の発信、健康増進・衛生知識の普及啓発】	食中毒、感染症、こころの健康などの専門知識を有する職員を「健康教室」や「研修会」へ講師として無料で派遣し、住民の健康増進や衛生知識の向上を図ります。	健康教室・研修会を年20回開催(派遣)します。	健康増進への住民理解が深まっています。 住民に衛生知識が浸透し食中毒、感染症の予防や拡大防止が図られています。
		健康福祉情報の積極的な提供を図ります。	「湖西の健康福祉だより」を年4回(約2,000部/1回)関係機関・団体へ発行し、健康福祉情報を積極的に発信します。	最新で正確な健康・衛生情報を住民が入手しやすくなり、生活に役立っています。 健康福祉行政への信頼感がより一層高まっています。
目標3	障がい者の社会参加を促進し、自立を支援します	関係機関・団体と協働し、障がい者の就労や社会参加を促進します。 なごみの森づくり事業が継承されるよう支援します。 精神障がい者の退院を促進します。	シタケ栽培農家での体験実習や精神保健職業リハビリテーション事業を活用し、障がい者3名の者に対して一般就労に向けた支援を行います。 シタケ栽培が就労支援B型事業所において授産事業として取り入れられ、障がい者の賃金アップが図られるよう支援します。 自立支援員を中心に、病院と関係者が一体となって支援を行い、あらたに精神障がい者1名の退院をめざします。	障がい者が生きがいをもって仕事に従事し、日々充実した生活が送られています。 就労支援B型事業所において、シタケ栽培が授産事業として軌道に乗っています。 精神障がい者が住み慣れた地域でいきいきと生活しています。
目標4	高齢者等の医療福祉を支えます	「湖西地域から医療福祉を考える懇話会」が中心となり管内の高齢者等の医療福祉の在り方について検討を行い、今後に向けた医療福祉ビジョンを作成し、その実現を目指します。	湖西地域から医療福祉を考える懇話会の開催(年2回) (仮称)地域医療福祉ビジョンの作成(3月末)	住民誰もが最後まで安心して自分らしく暮らせて、安心して看取られる医療福祉の体制づくりに向けたビジョンが策定され、実現に向けた取り組みが進みます。
		認知症の理解と地域生活の支援を図るため関係機関・団体と連携し、情報共有を図るとともに、認知症に関する正しい理解の普及や支援ネットワークの構築を行います。また研修事業を開催し関係者の力量アップを図ります。	高島地域認知症支援ネットワーク会議(年2回)および認知症相談医フォローアップ研修会(年1回)を開催します。 多職種協働研修会(年2回)を開催。認知症ケアネット(年4回)に参加。	関係者の認知症に対する理解が深まり顔の見えるネットワークが構築されるとともに、管内の課題に対しての解決策を具体的に提示できるようになっています。 認知症に対する住民や関係者の理解が進み地域全体で支え合うことができています。